

# 1 湿害

## (1) 湿害の機構

ムギ類のような畑作物は、土壌中の水分が多すぎると生育に障害が起こる。冬でも土壌中に水分が多くなると酸素不足となり、養分吸収が衰えて生育不良となる。春の温度の上昇と過湿は、酸素不足のほかに、土壌中に有害物質ができて生育を害する。したがって畑栽培より水田裏作ムギに湿害が起こりやすく、特に水田裏作の多い地方で問題視される。

一般には、早生種は湿害を回避しやすくコムギがオオムギより湿害に強いといわれ(表24)、また、それぞれの品種の間に強弱がある。ムギの生育時期と湿害との関係を見ると、図18に示すように、発芽期の種子は浸水によって腐敗するので最も被害が大きく、その後は幼穂形成期から穂ばらみ期の被害が大きい。

表24 ムギの生育と最適水分

種類	含水比	最大容水量
コムギ	30~37%	45~70%
オオムギ	12~18	40~75

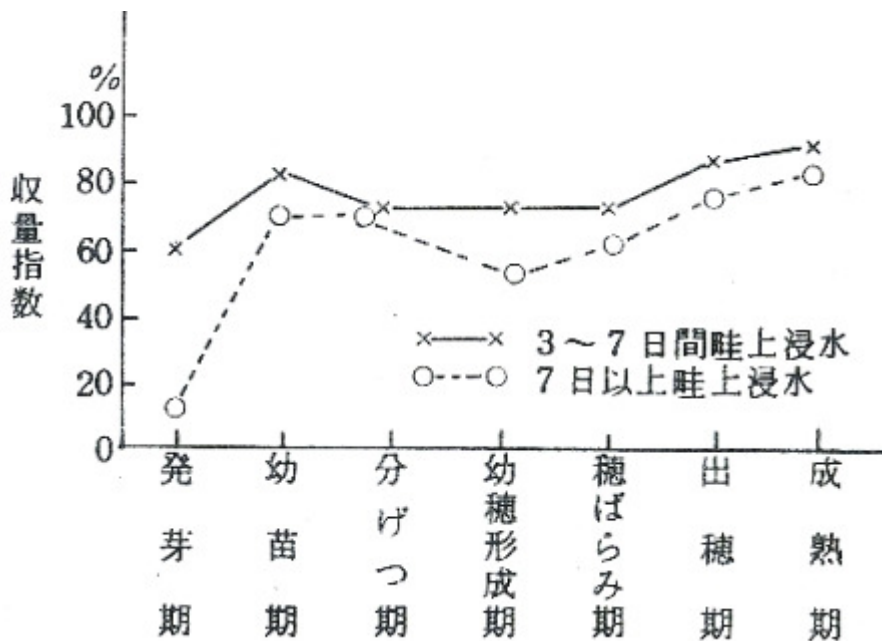


図18 生育時期によるコムギの浸水被害(中国農試)

## (2) 対策

畦間の均平化をはかり、畦の長さも20m以下(畦と直交する排水溝を20m間隔に設ける)として排水促進に努め、1日以上滞水しないようにする。